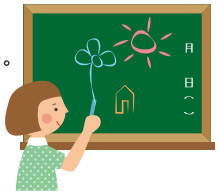
黒板は何でできているの？

みんなが授業で向き合っている黒板は、大切な教育の情報を伝える場であり、最も古くからある教育器材の一つです。ではその黒板はどうやってできているのでしょう。身近にあるのに意外と知らない黒板の歴史やメカニズムについて教えてもらいました。



答え：黒板は、鉄板、木材、アルミでできているよ。

黒板は緑色なのに、なぜ「こくばん」と呼ばれているの？

1872年に日本に黒板が伝わり150周年を迎えました。その間に私たちの学び舎は、木造校舎から鉄筋・鉄骨校舎へと移り変わり、そして授業中に教師によって書き込まれる黒板も研ぎ出し黒板からスチール黒板に、さらに技術の進歩によってプロジェクターの映像が見やすいホーロー黒板やパソコンと接続して映像を映す電子黒板へと時代のニーズに合わせて進化しています。では、黒板の歴史について少し触れてみましょう。

黒板の歴史

※全国黒板工業連盟参照

1872年　学校制度がスタート
現在使われている黒板は、東京大学の前身である大学南校の教師のスコットさん（アメリカ人）によって日本に伝えられたといわれています。

1874年～1976年　全国に黒板が広がる
日本全国に黒板は広がり、国産品が製造されました。はじめは板に墨汁を塗ったうえに、柿渋を上塗りしたものでした。

1952年～1954年　JIS規格（日本工業規格）制定
資材の調達やJIS規格対応のため、全国黒板工業連盟を結成。JIS規格（日本工業規格）が制定され、塗面が黒から緑に変わりました。

黒よりも緑のほうが目に優しいことや、チョークの白い字が見えやすいことも理由にあったみたいだね！

1872 → 1874 → 1874- → 1939-45 → 1952ごろ → 1965- → 2023-

1874年　授業で黒板が導入される
日本の新しい授業形態に黒板が使われ始めます。この時代の黒板は、チョークの白い字がはっきり見えるように「黒色」をしており、英語の「black board」が直訳されて「黒板」と呼ばれるようになりました。

1939年～1945年　戦争の影響を受けて資材不足になる
黒板は、墨汁と柿渋以外に、漆が使われていましたが、戦争の影響で、輸入品の漆が入手困難となり、メーカーは材料の調達に苦労したといいます。

1965年ごろ　黒板の素材が「木」から「鉄」へ
高度成長期を迎え学校の数が増えたとともに、黒板自体の素材が「木の板」から大量生産できる「鉄の板」へと移り変わります。

現在
高さが調整できる黒板、スクリーンになる黒板、ホワイトボードなど、学びのフィールドは時代に応じて進化しています。

黒板を作る職人さんのお仕事を見てみましょう。

急速なデジタル化によって、みんなが学ぶ教育現場や手段にも変化が現れています。しかし、先生が黒板にチョークで文字を書き、生徒たちに教えるという授業形態は、昔から大きく変わっていません。黒板を作っている工場で働く職人さんのお仕事を見てみましょう。

1 黒板の表面となる巨大な鉄板のロールを、専用の機械で必要なサイズにのばしてカット。

2 鉄板とベニア板を寸法通りに切ったものに接着剤を吹き付けます。

3 乾燥したら職人の目と手作業で貼り合わせていきます。

4 ベニヤ板に裏桟をつける際に、キズやゴミなどが入らないよう細心の注意をはらいながら固定。

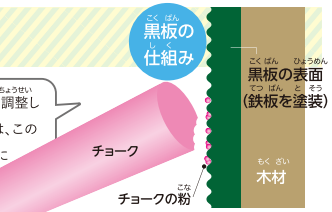
5 アルミ枠とチョーク置きをねじ止めして完成です。

製造部 製造グループ長
片山 雄太さん
子どもたちが学校で学ぶ姿を想像しながら丁寧に仕上げていきます。黒板を設置しに行った際に、先生や生徒さんに「ありがとう」と感謝の言葉をいただけた時が大きな喜びです。

黒板とチョークは相性が良い？！

黒板は、チョークの書きやすさや消しやすさ、そしてチョークで書いた時の字の見やすさなどを良くするために、表面のあらさや光沢度などを調整して改良されています。

表面の緑色の塗装は、塗料の成分配合を調整してザラザラに仕上げています。チョークは、この表面でけずられて粉になって黒板のみぞに付着することで字が書けます。



黒板の使い方は教育現場だけじゃない！

いわま黒板製作所は、県内で唯一の黒板専門メーカーです。1936（昭和11）年の創業以来、「できないをできるに変える！」をスローガンに、さまざまなことに挑戦しています。時代のニーズに合わせた黒板やホワイトボードを製造・販売する一方で、学校以外でも黒板を使ってもらおうと、チョークで書ける車「コクバンカー®」や、廃校になった学校の黒板を使った「黒板卓球」なども製作。どの世代も使ったことのある黒板が、家庭や地域のコミュニケーションツールとして活躍できるよう、これからも利用の意義を伝えていきます。

株式会社いわま黒板製作所
教えてくれた人
営業部　角野 加奈さん

当社には「ミライノガッコウカンパニー」というブランドネームがあります。現在、学校の教育現場はICT教育が進み、電子黒板や1人1台端末が導入され、10年前と現在では授業の進め方や内容も大きく変化しています。みなさんが大人になった頃の学校や教育はどう変化しているのでしょうか。10年後、20年後のミライに、私たちができることは何かを考え、教育現場の環境づくりのお手伝いしていきます。

取材協力／株式会社いわま黒板製作所
香川県善通寺市与北町1131　tel.0877-62-1631

このお仕事に役立つ教科
算数　理科　国語　図工